

兵庫県とフランス・アヴェロン県との柔道交流

昨年、兵庫県柔道連盟の指導者6名と県内の高校の柔道部員12名がフランスを訪れ、アヴェロン県内の柔道クラブと交流しました。今年は8月20日から29日までアヴェロン県柔道連盟の指導者6名と選手11名が来県し、旧交を温めながら兵庫県の各地を訪問しました。

県立総合体育館での練習

アヴェロン県の選手たちは、昨年アヴェロン県を訪れた県内の高校生たちと一緒に県立総合体育館で練習しました。普段は陽気な彼らも柔道着に身を包めば雰囲気は一変。各々が技術をさらに磨こうとする姿勢には柔道大国の誇りが見えました。また、日本人との集団生活の中で、行動スケジュールに合わせる事、食事の準備や部屋の清掃を自ら行うことの大切さを学習しました。



灘高校での稽古

灘高校では県内のいくつかの高校柔道部と一緒に練習し、形の講習会にも参加しました。「柔道の父」嘉納治五郎の肖像画が見守る中でレベルの高い練習ができ選手たちは充実した表情をしていました。

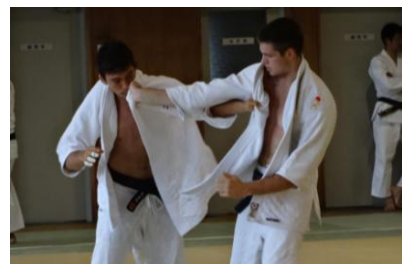


ホームステイ体験

選手たちはHIAのホストファミリーでホームステイを体験しました。日本の家庭料理を楽しむとともにホストファミリーと有馬等を訪れ交流を深めました。日本が10回目というアヴェロン県柔道連盟副会長ミシェル・カヴレロさんは「ホームステイから戻ってきた選手達の表情が輝いていた。とてもいい体験だったことがよくわかります。もてなしてくれた兵庫の皆様感謝します。」と喜んでいました。

甲南大学での試合

27日、甲南大学で地元の高中生・大学生と練習や試合をしました。試合で日本人選手に勝利したアヴェロン県柔道界の有望株ロマン・ラブロ選手は「日本人選手は皆強く、速く、素晴らしい精神をもっている。いつかオリンピックや世界選手権で日本人選手と対戦したい。」と将来の抱負を語りました。



乱取り稽古をするラブロ選手

滞在期間中、昼夜を問わず、指導方法に関する意見交換が日仏指導者間で頻繁に行われました。アヴェロン県柔道連盟会長ダニエル・マルティさんは、「兵庫県柔道連盟をはじめ、兵庫の皆さまにとってもよくしてもらいました。スポーツ、文化、心の素晴らしい交流ができました。フランス柔道界の発展のために、こうした交流を今後もぜひ続けていきたいです。」と交流の継続を熱望していました。両県柔道連盟は来年以降の交流に向けた準備をすでに始めています。

※詳細についてのお問い合わせは

(公財)兵庫県国際交流協会 企画広報課

TEL 078-230-3267 まで